

3 口腔内診査票における質問項目の結果

(1) 回答者

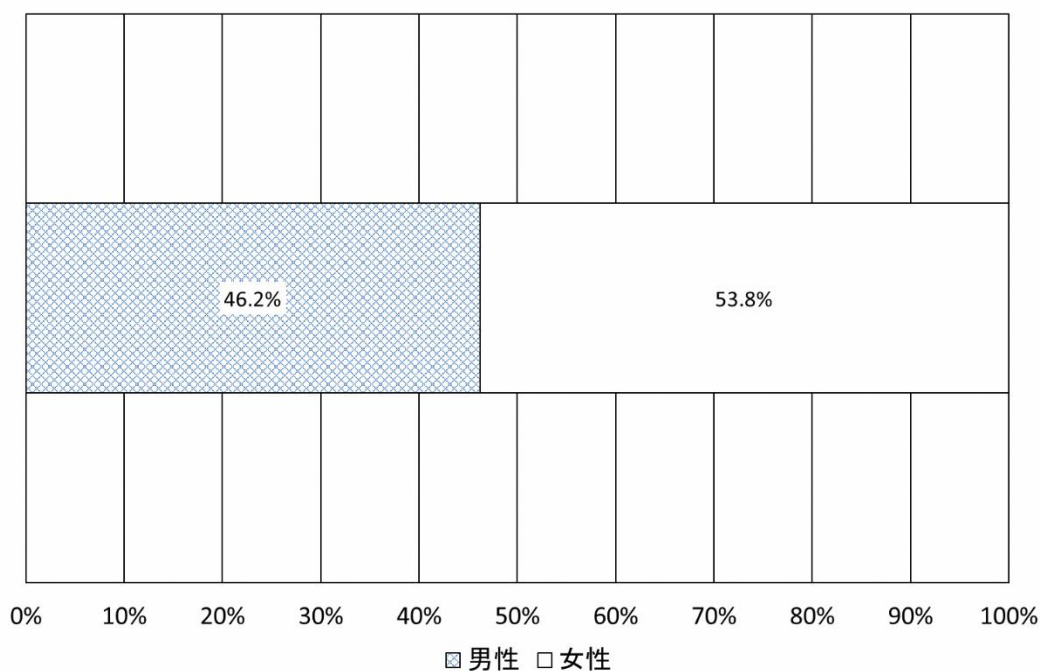
口腔診査票における質問に回答した者は、男性 674 人、女性 785 人、計 1,459 人である。口腔内診査の被調査者数について図表 19 に示す。「男性」が 46.2%、「女性」が 53.9%と、健康意識調査回答者における男女比率とほぼ等しくなっている。

年齢階級の構成比について図表 20 に示す。「60～69 歳」が 22.4%と最も多く、次いで「70～79 歳」が 19.6%、「40～49 歳」が 12.5%となっている。

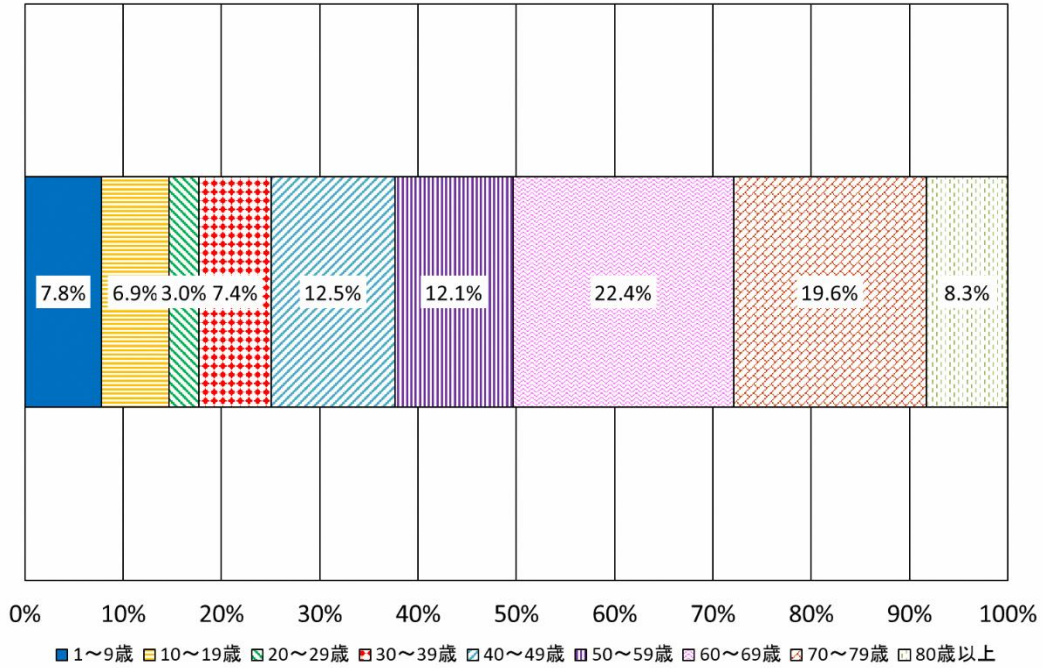
年齢階級別の性の構成比について、図表 21 に示す。「1～9 歳」を除く、各年齢階級で女性の回答者の割合が高くなっている。

なお、基礎データとして、年齢階級別・性別の人数を図表 22 に示す。

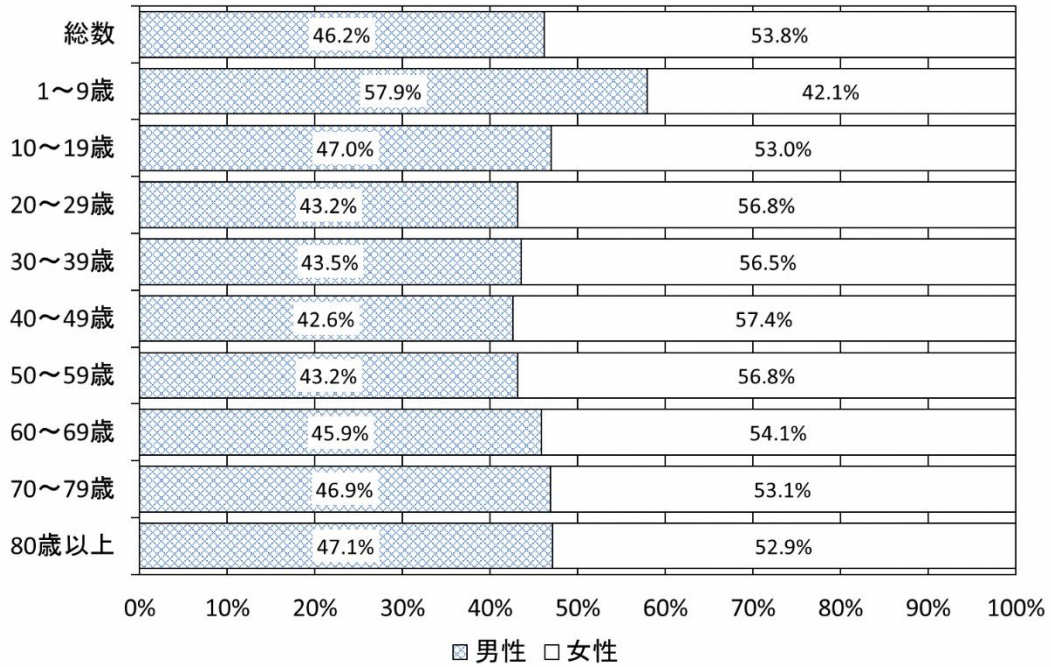
図表 19 回答者の性の構成比



図表 20 回答者の年齢階級の構成比



図表 21 回答者の年齢階級×性別の構成比



図表 22 回答者の年齢階級×性別の人数

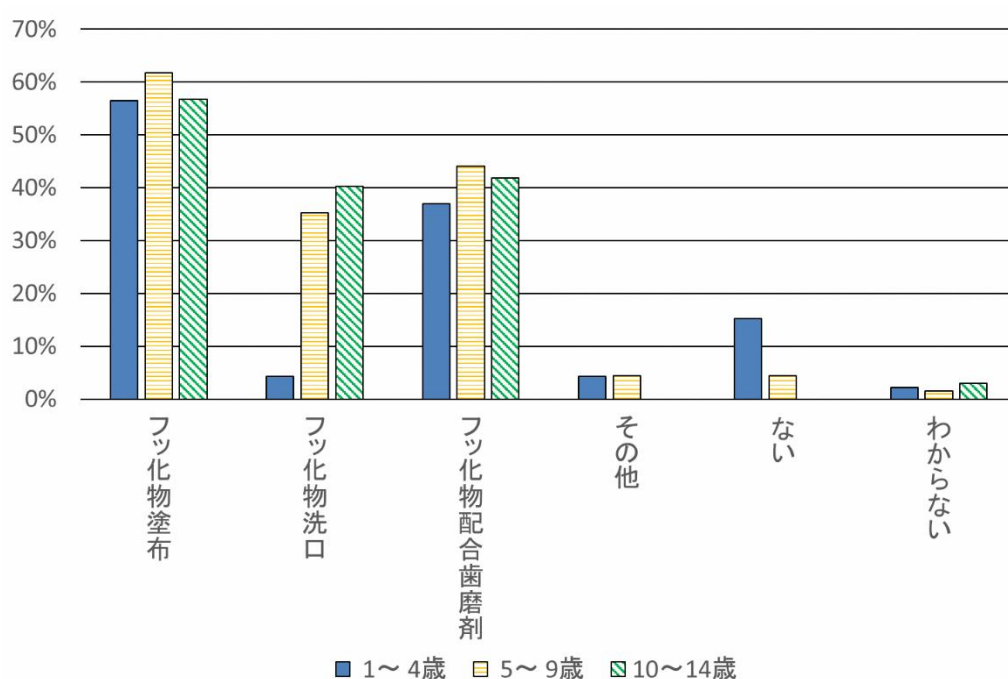
年齢	男性 (人)	女性 (人)	総計 (人)
1～9歳	66	48	114
10～19歳	47	53	100
20～29歳	19	25	44
30～39歳	47	61	108
40～49歳	78	105	183
50～59歳	76	100	176
60～69歳	150	177	327
70～79歳	134	152	286
80歳以上	57	64	121
総計	674	785	1,459

(2) 調査項目

ア (満1歳～14歳以下) フッ化物応用経験の有無(複数回答)

フッ化物応用経験について、図表 23 に示す。「フッ化物塗布」経験が最も多く、「5～9歳」では61.8%、「歳全体でも58.6%となっている。「フッ化物洗口」は、対象年齢が4～14歳ということもあり、「1～4歳」では4.3%と低い値となっている。「(経験が) ない」と回答した者は、「10～14歳」では0.0%となっている。

図表 23 フッ化物応用経験×年齢階級・方法別



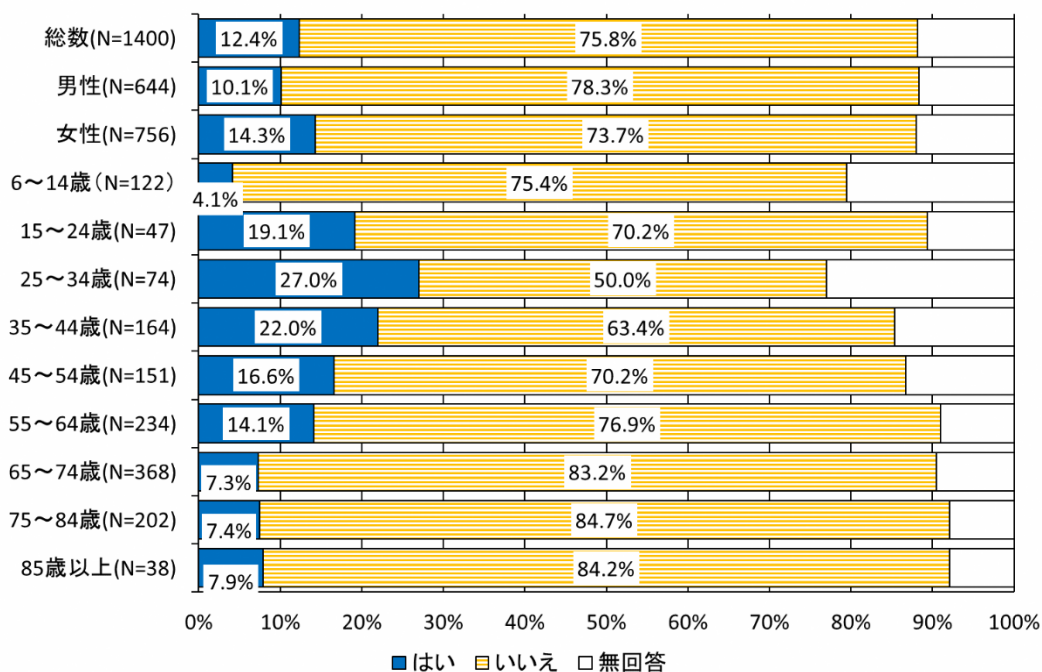
イ (満6歳以上) 顎関節の異常

「口を大きく開け閉めした時」の「あごの音」及び「あごの痛み」についての自覚症状の有無を、それぞれ図表 24～25 に示す。

回答者全体では「あごの音がする」が 12.4%、「あごの痛みがある」が 2.8%となっている。

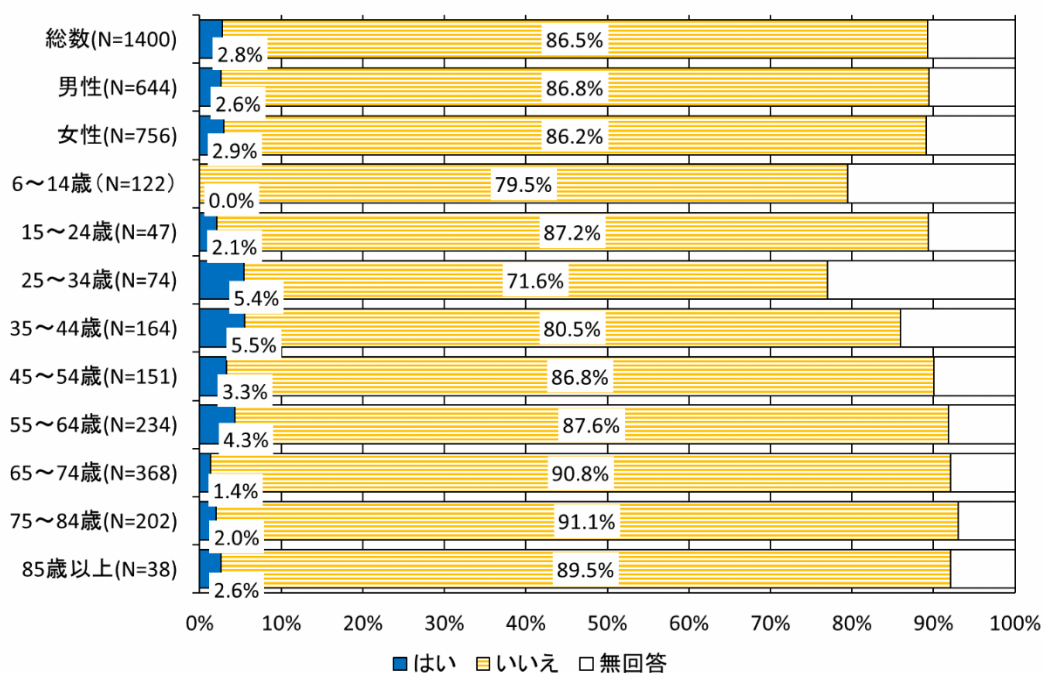
「口を大きく開け閉めした時、あごの音がする」者の割合について図表 24 に示す。性別にみると、男性が 10.1%、女性が 14.3%であり、女性のほうが 4ポイント程度高い割合となっている。年齢階級別では「25～34 歳」及び「35～44 歳」が 20%以上となっている。

図表 24 顎関節の音×性別／年齢階級別



「口を大きく開け閉めした時、あごの痛みがある」者の割合について図表 25 に示す。性別にみると、男性が 2.6%、女性が 2.8%であり、ほぼ同じ割合となっている。年齢階級別では「25～34 歳」及び「35～44 歳」が 5%以上となっている。

図表 25 顎関節の痛み×性別／年齢階級別



ウ (全年齢) 歯や口の状態で気になること (複数回答)

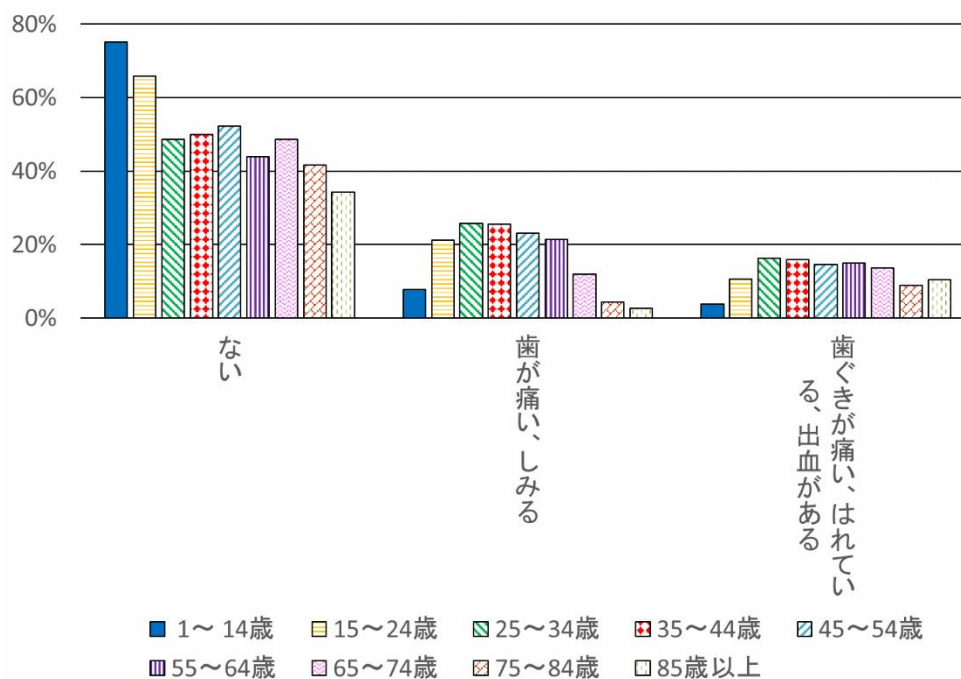
「歯や口の状態で気になること」についての自覚症状の有無を、それぞれ図表 26～28 に示す。

回答者全体では「(気になることは) ない」が 50.9%であり、約半数の者が、何らかの気になることを有している。年齢階級別にみると、「1～14 歳」が 75.1%と最も高く、次いで「15～24 歳」の 66.0%となっており、最も低いのは「85 歳以上」の 34.2%である。

「歯が痛い、しみる」と回答した者は、「15～24 歳」から「55～64 歳」までの年齢階級で 20%を超えている。

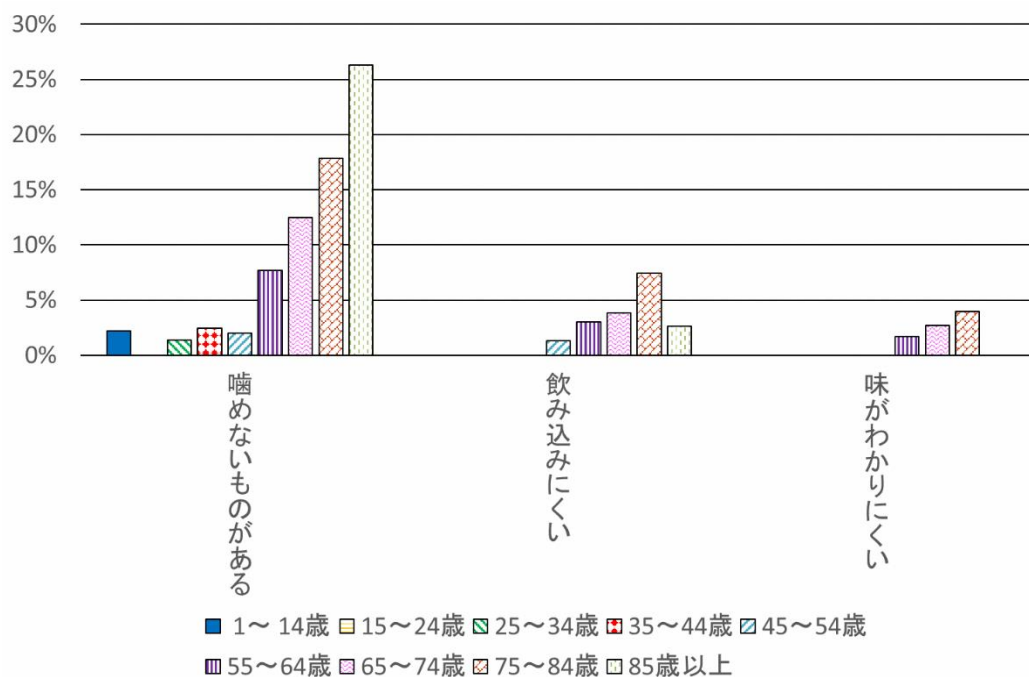
「歯ぐきが痛い、はれている、出血がある」と回答した者は、「15～24 歳」以上において「75～84 歳」を除く年齢階級で 10%を超えている。

図表 26 歯や口の状態について気になること×年齢階級・種類別 1



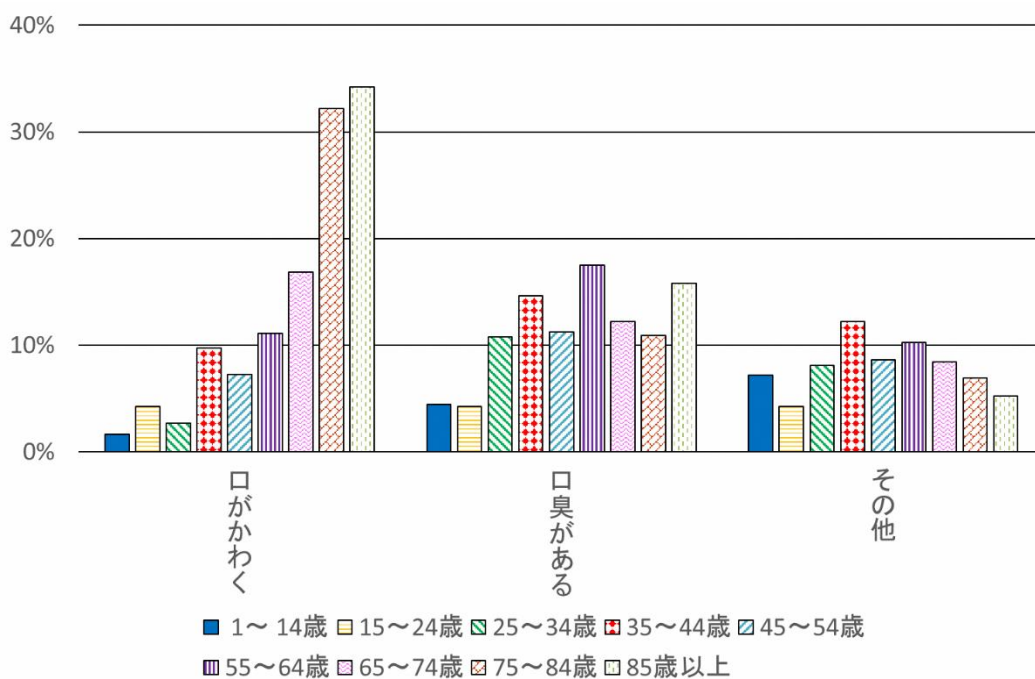
「噛めないものがある」者の割合は、「45～54 歳」までは、3%未満であるが、「55～64 歳」では7.7%となり、「85 歳以上」では26.3%にまで増加している。「飲み込みにくいものがある」者の割合は、「45～54 歳」ではじめて出現し、「75～84 歳」で7.4%と、最も高くなっている。

図表 27 歯や口の状態について気になること×年齢階級・種類別2



「口がかわく」と回答した者は、各年齢階級で存在するが、75歳以上で急増し、30%を超えている。「口臭がある」と回答した者は、「55～64歳」の年齢階級で最も多く、17.5%となっている。

図表 28 歯や口の状態について気になること×年齢階級・種類別3



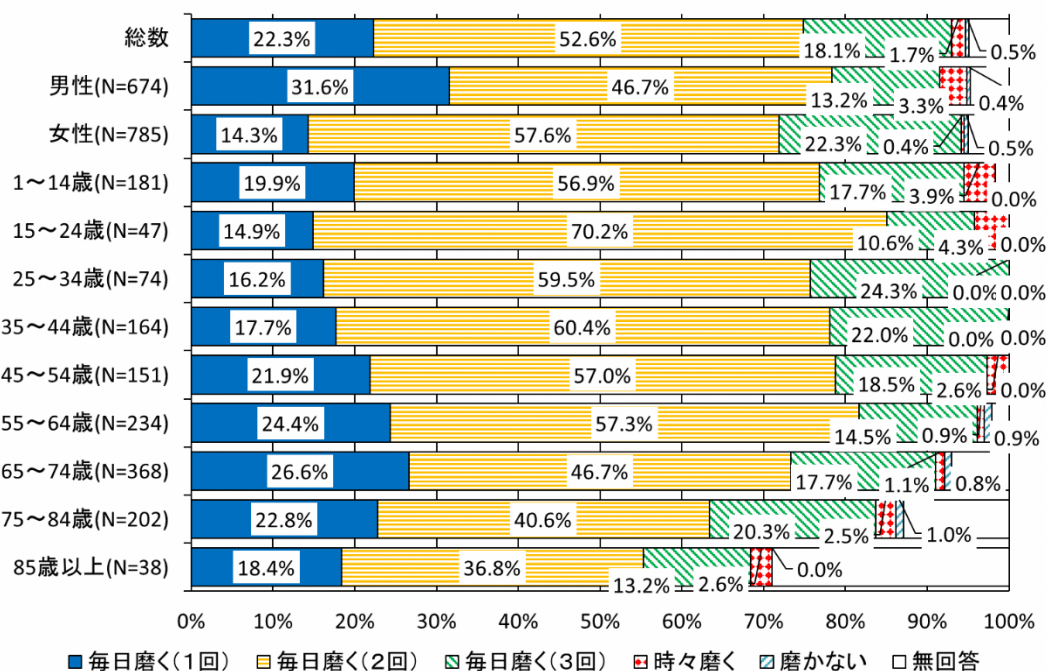
エ (全年齢) 歯を磨く頻度 (歯が全くない人は除く)

歯を磨く頻度について、図表29に示す。回答者全体では「毎日磨く (2回)」が5.6%と最も多く、次いで「毎日磨く (1回)」が22.3%、「毎日磨く (3回)」が18.1%となっており、毎日1回以上磨く者が90%以上を占めるとともに、毎日2回以上磨く者も70%超となっている。

性別にみると、「毎日3回以上磨く」は男性13.2%に対し女性22.3%、「毎日2回磨く」は男性46.7%に対し女性57.6%であり、女性のほうが1日に磨く回数が多くなっている。

年齢階級別にみると、「65~74歳」以上では毎日2回以上磨く者の割合が70%を下回っている。

図表 29 歯を磨く頻度×性別/年齢階級別



オ (全年齢) 歯や口の清掃 (複数回答)

「(歯ブラシを用いた歯磨きに加えた) 歯や口の清掃」について、図表 30 に示す。

回答者全体では「おこなっていない」が 40.2%であるが、男性では 49.3%、女性では 32.5%と約 17 ポイントの開きがある。

「デンタルフロス・歯間ブラシ」については、「15～24 歳」を除く「75～84 歳」以下の各年齢階級で 20%を超えており、「35 歳～44 歳」、「45 歳～54 歳」及び「55 歳～64 歳」では 40%を超えている。

「舌清掃」については、「15～24 歳」以上の各年齢階級において 20%を超えている。

図表 30 歯ブラシ以外の歯や口の清掃×年齢階級・種類別

